

令和2年度指定管理業務に関する事業報告書（デイ）

施設名 京都市御室老人デイサービスセンター

1 施設の管理運営

・介護保険法に基づく、（介護予防）通所介護事業及び介護予防型・短時間型デイサービスの実施

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

2 事業実施内容

【老人デイサービス事業】
・通所介護・介護予防通所介護事業実施とこれに伴うサービス提供（食事・入浴・機能訓練・レクリエーション・送迎・相談業務などの提供）
・日曜日と年末年始（12/31～1/3）を除く毎日開所
・通所介護計画に基づく個々の利用者の生活支援を目指したサービス提供。個別機能訓練計画に基づいて、専門職（柔道整復師）との日常的な連携のもとに行う個別機能訓練
・利用者の興味・関心に即して、選択できるレクリエーションを提供し、グループ活動の実践による心身機能の向上、生活の充実のための支援を行うとともに、集団でのレクリエーションを提供することによる、協調性の助長や仲間意識の醸成を図る
・個々の利用者に対する相談援助と関係機関との協議
・サービス向上に向けた取組として、ユーザーアンケートの実施と第三者評価事業の定期受診、職員に対する内外研修の積極的な取組

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

（参考）自主事業内容

3 サービス提供状況

管理者：1名 生活相談員：2名 看護師：6名 機能訓練指導員：3名
介護職員：14名 運転手：2名 調理員：5名

（参考）今後実施予定の指定管理者提案内容

4 市内中小企業への発注に対する考え方

経営の安定に、経費削減は欠かせない考え方ではあるが、施設が根ざす地域の事業所に協力を得ることにより、効率的な設備保全や、消耗品管理につながることも重要であるとも考えている。また地元の小売店からの食材の確保などは、利用者の職に対する安心にもつながることから、これらを両立させるべく、本会経理規程に基づき、綿密な相談・調整を行っている。

5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

(1) 延べ利用者数(実績値)

8949 人

(2) 実利用者数(実績値)

1159 件

(3) 収支実績

ア 令和2年度収入状況(単位:円)

介護保険収入	91,578,381
利用料収入	5,764,193
委託料収入	
補助金収入	
寄付金収入	
雑収入	
その他	9,035,095
収入計	106,377,669

イ 令和2年度支出状況(単位:円)

人件費	73,483,266
事業費	12,484,638
委託費	
小額修繕費	
その他	20,407,797
支出計	106,375,701

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

令和3年年1月に全利用者を対象とした、法人統一のアンケートを実施。当センターより必要に応じ説明の上配布し、無記名で法人事務局宛の返送による回収を行い、回収率は56.5%であった。

(2) 利用者満足度把握の結果

【利用時間】満足:80.8% やや満足:11.5% やや不満:3.8% 不満:0.0% 無記入:3.8%
 【送迎】満足:80.8% やや満足:13.5% やや不満:0.0% 不満:0.0% 無記入:5.8%
 【入浴】満足:65.4% やや満足:23.1% やや不満:0.0% 不満:1.9% 無記入:9.6%
 【食事】満足:78.8% やや満足:9.6% やや不満:1.9% 不満:0.0% 無記入:9.6%
 【レクリエーション】満足:46.2% やや満足:17.3% やや不満:5.8% 不満:0.0% 無記入:30.8%
 【機能訓練】満足:54.7% やや満足:18.9% やや不満:1.9% 不満:1.9% 無記入:22.6%
 その他。職員の身だしなみや態度、言葉使い、施設の使い勝手や環境などを質問した。全体的な満足度として、満足:76.9% やや満足:3.8% やや不満:3.8% 不満:0.0%と80%以上の方に高い評価をいただいている。コロナ感染予防の観点から、レクリエーション内容に制限があり、その満足度が低下していることは懸案事項である。

(3) 意見等への主な対応状況

アンケート結果は、集計後速やかにミーティングおよび職員会議など職員間で共有した。また施設内に掲示し、皆さんに見やすい状況を提供している。例年外出行事などは大変好評で、皆さま心待ちにしておられるが、感染予防の観点から、無用な外出を控える意味から中止とした。少しでも外出気分を味わっていただきたく、さまざまな季節行事ごとに、全国各地の観光地や行事などをビデオ視聴するなどしている。また他のレクリエーションも、皆で盛り上がる取り組みを控え、またカラオケも実施していないことから、人気のある取り組みがことごとく自粛の憂き目にあっているため、満足度のポイントが低下した。例年、茶話会として、おやつを提供しながら、皆さんが普段感じておられることをゆっくりお伺いする時間を持っていたが、これも、喫食をしながらの会話は危険と判断し、今年度はしていない。連絡帳のコメントなどを活用し、ご利用者様ご家族と意見のやり取りなどを行っているが、デイサービスでの取り組みや、その時のご様子などをより視覚的に伝えることができるよう、写真を多用した広報誌の充実を図っている。

7 その他特記事項

(1)

例年、地元中学校のチャレンジ体験や介護等体験などを積極的に受け入れ、社会的使命として福祉と教育の接点の場としての努めを果たす努力をしてきたが、今年度は、コロナ禍においてことごとく中止となった。また、地元の保育園児との年間を通しての交流も、具体的に訪問する交流は中止とした。しかし、その関係性を損ねることなく取り組みを検討し、双方からの手紙やプレゼント交換などを定期的に行い、縁を紡いだ。

(2)

8 評価（指定管理者自己評価）

・事故再発防止委員会とサービス向上委員会は、毎月開催している。日々のミーティングで振り返っている事故等を再検証や、利用者個人に関するケース検討をさらに運営全体の中で検証するなど、これら両面からサービス充実を目指している。

・職員の定着率が比較的高く、ベテラン職員を多く有している。介護福祉士を有する職員も多く、専門性の高い、安定したサービス提供を心掛けている。その中で、職員の持つ感覚が偏ったものになっていないかの振り返りは大変重要なものと認識し、法人の各施設の集まりであるブロックにおいて、自分たちのケアを振り返る機会を、不適切ケアに関する振り返りとして、ケアワーカー主導で研修を行った。参加できなかった職員には、職員会議などで復命研修を行うなど、全体で共有した。

・京都市立鳴滝総合支援学校より、卒業後の進路として高齢者福祉施設での関りを希望している生徒の実習を受け入れてほしいとの申し入れがあった。卒業後には、当センターで働くことを目標としたいとの相談であった。どのようにかかわっていけるのかなど職員集団での話し合いを重ね、複数回の実習を受け入れ、学校や保護者との連携を重ねる中で、採用の方向に進めることができた。採用にあたっては、支援学校実習担当教師より、「ともに働くことに向けての勉強会」も実施し、一緒に働く仲間として、どのように寄り添っていけるかの話し合いなど、大変有意義な時間を持つことができた。

・法人内での施設長会議で示された、京都市発行の「Diversity LGBTの視点から考えるこれからの職場づくり」をもとに、内部研修を行った。特に「SOGI」については多くの職員が不認識であり、人口割合や各事業所の具体的な取り組みなどを示していただけたこの資料により、私たちのより身近なものであるという認識を持ち、その見識を深めることができた。